

公開授業（分野）：造形図法（共通科目）

対象学年（履修区分）：1・2年（選択必修）

公開日時：2018年6月25日（月）2限・11月27日（火）4限

■公開した授業の該当科目全体における位置づけ・進め方や工夫した点

造形図法15回を大きく分けると以下のようになる。

- ・前半7回：平面的な図法＝基本的な作図方法、自分のシンボルマーク、連続模様など
- ・後半8回：立体的な図法＝遠近感のない立体図法、遠近感のある立体図法

公開した授業は立体図法の序盤にあたり、立体的な感覚に苦手意識を持っている学生にも接しやすく平面作品にも活かしやすい図法を取り扱うようにしている。立体的感覚に苦手意識を持っている学生が多いと感じていて、身近なグラフィックに使われている立体図法に気付かせたり体験させることで、その先入観を取り去りたいと考えている。

進め方及び工夫した点

- ・授業は前回の復習から始まる。
- ・テーマに沿った体験課題を行い理解する。
- ・世の中にある作品例、活用例を見て作品制作に使えることを認識する。
- ・私がフレキシブルな動きをして、飽きさせないようにする。

立体の図法では、理解が追いつかない学生も多い。つまづくことで苦手意識が生まれにくいように、体験課題の難易度は下げつつ、流れるような（切れ目のないように）繋がる授業を演出している。学生は流れに乗っていればいつの間にか理解し各自の作品制作に活かせる知識を身につけられる。

■参観者や研修会での意見交換を踏まえ、次年度への改善計画等

・講義室前方に座る学生が少ないことについて＝体験課題を毎回行うので、その間は机間巡視になり、あえて前方に集めなくても良いと考えていた。しかし他の授業との統一感や講義室内の一体感、集中力を高めるためには必要なのだと考えるきっかけとなった。

・復習、体験課題、作例鑑賞と、要素が多く一つ一つの解説が足りない＝全くその通りであり、改善すべきところである。多くの要素を詰め込むことよりも、説明が浸透する余裕を作ることを心がけたい。

すべてのコースの学生が選択できる授業なので専門的に偏りすぎず、多様な表現に応用できる図を教えることを心がけていきたい。